

中高级日语教程

王秋菊 陈永岐 主编



NEUPRESS
东北大学出版社

中高级日本语教程

王秋菊 陈永岐 主 编

东北大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

中高级日语教程/王秋菊,陈永岐. —沈阳:东北大学出版社,2001.11
ISBN 7-81054-681-3

I. 中… II. ①王… ②陈… III. 日语 IV. H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2001)第 085941 号

出 版 者: 东北大学出版社

(邮编: 110004 地址: 沈阳市和平区文化路 3 号巷 11 号)

出 版 人: 李毓兴

印 刷 者: 东北大学印刷厂

发 行 者: 东北大学出版社发行

开 本: 787mm×1092mm 1/16

字 数: 375 千字

印 张: 15.5

印 数: 1~3000 册

出版时间: 2001 年 11 月第 1 版

印刷时间: 2001 年 11 月第 1 次印刷

责任编辑: 李毓兴

责任出版: 杨华宁

封面设计: 唐敏智

定价: 25.00 元

垂询电话: 024—23890881 (社务办)

024—23892538 (传 真)

83687331 (发行部)

83687332 (出版部)

E-mail: neuph@neupress.com

<http://www.neupress.com>

前 言

《中高级日语教程》是以在校研究生、博士生为主要对象编写的日语教材。同时，也可以作为日语专业学生的泛读教材使用。

教材共分成9个单元，前8个单元是日语文章部分，第9单元是日语作文。

前8个单元的每篇文章均由「新しい言葉」、「考えましょう」、「本文」三部分构成。

「新しい言葉」中将难解词汇逐一加注了中文解释，尤其是外来语，不仅加注中文解释，还注明原文，以便使学生了解语源，更好地理解文章。

「考えましょう」部分在帮助学生理解原文的基础上，设定场面，就文章中的问题进行日语对话，以提高学生们的外语思维及口语表达能力。

「本文」部分1~7单元均由六篇文章构成，第8单元只选用了「学問のすすめ」一篇文章，因文章较长，并且是文语体，编者有意安排这样的体例，目的在于平衡难易度，使学生有机会接触并了解文语文。

每个单元都精选了「文法のまとめ」と「演習問題」，总结并归纳了高级语法的重点和难点，并配有练习题。语法与练习题均相当于国际日语能力测试1级水平。

第9单元的日语作文部分，教师可根据课堂进展及学生情况，灵活讲授与实践。

该教材的特点是教学目的明确，选材新颖，内容丰富，最大限度地满足中、高级日语学习者的要求，提高听、说、读、写四项技能。在整体结构上，教学单位可以根据本校学生的程度、课程配置及课时要求，灵活调整单元内容、精读和泛读的比例。

该教材由从事研究生日语教学的教师王秋菊、陈永岐主编。参加编写者为罗琳、李宗鹏、岳一笑、石晶、邹善军、公玉实。

由于编写时间仓促，水平经验有限，难免有错误和不当之处，敬请同行们批评指正。

编者

2001年10月

目 次

ユニット1ー1	1
1 たとえる	1
2 身体に関する言い回し	3
ユニット1ー2	7
1 あそぶ	7
2 祭り	9
ユニット1ー3	11
1 がんばる	11
2 練習と人生	13
文法のまとめ	15
演習問題	20
ユニット2ー1	24
1 たべる	24
2 日本人の食生活	26
ユニット2ー2	29
1 心を伝えるあいさつ	29
2 敬語	32
ユニット2ー3	37
1 自己発見	37
2 文章について	42
文法のまとめ	45
演習問題	49
ユニット3ー1	53
1 壊れたと壊したはちがう	53
2 情けと法律	55
ユニット3ー2	57
1 初月給	57
2 抗議する義務	59
ユニット3ー3	61
1 「生きる」ということ	61
2 要約して的確に書く	68
文法のまとめ	71
演習問題	76
ユニット4ー1	80

1 日向	80
2 城の崎にて	83
ユニット4-2	89
1 野口英世	89
2 「殺し屋ですよ」	93
ユニット4-3	98
1 ほんものの豊かさ	98
2 顔をなくしたふるさと	102
文法のまとめ	105
演習問題	110
ユニット5-1	115
1 コンピュータ夢物語	115
2 宇宙との出会い	119
ユニット5-2	122
1 健康ブームの光と影	122
2 人の寿命と病気	125
ユニット5-3	129
1 しらせる	129
2 調べて書く	131
文法のまとめ	134
演習問題	139
ユニット6-1	142
1 住まいの工夫	142
2 天気のことわざを考える	145
ユニット6-2	147
1 雑木林のなかで	147
2 理想のエネルギー原子力	150
ユニット6-3	153
1 まもる	155
2 感想をまとめる	155
文法のまとめ	157
演習問題	163
ユニット7-1	167
1 電車の中のプライバシー	167
2 身振りと言語	171
ユニット7-2	173
1 青春のひとこま	173
2 水の東西	176
ユニット7-3	179
1 伴いを慕う心	179
2 日記と手紙の書き方	181

文法のまとめ	184
演習問題	190
ユニット8	193
学問のすすめ	193
文法のまとめ	197
演習問題	206
ユニット9 日本語作文	213
1 マスコミ(段落構成練習)	213
2 時は金なり(要約練習)	215
3 見合いと恋愛(資料より作文へ)	217
4 誤解を生む日本語(話し言葉より書き言葉へ)	219
5 家庭教育(論点整理練習1)	221
6 インスタント食品の功罪(論点整理練習2)	223
7 近況報告(推敲の練習)	225
8 わかりやすく文章を書くためには(論文編)	228
参考文献	240

ユニット1-1

1 たとえる

新しい言葉

例える(他下一)	例如, 举例
役に立つ(連語)	发挥作用, 起作用
口に出す(連語)	说出
便利だ(形動)	方便
猫に小判(慣用句)	对牛弹琴, 不起作用
全然(副)	完全, 根本
本棚(名)	书架
並べる(他下一)	排列
是非(副)	务必, 一定
沢山(名、副、形動)	多数, 大量

考えましょう

- (1) あなたの国では猫はどんな動物だと言われていますか。
- (2) 「猫のような人」と言われたら、どんな人のことを考えますか。
- (3) 「借りてきた猫」という言い方がどんな意味だと思いますか。
- (4) あなたの国で、話の中によく出てくる動物は何ですか。
- (5) 忙しくてだれかに手伝ってもらいたいとき、何と言いますか。
- (6) 「庭があるが、とても狭い」と言いたい時にも猫を使って言います。何と言いますか。
- (7) あなたの国にも「猫に小判」と同じ意味の言葉がありますか。
- (8) あなたの国ではどんなとき、動物を使って例えを言いますか。

本文

たとえる

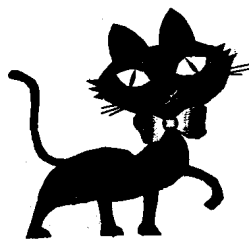
忙しくて忙しくて、だれでもいいから一人でも多くの人に手伝ってもらいた

い。そんなとき、日本語では「猫の手も借りたいほどだ」と例えて言います。たとえ猫が手伝ってくれてもそれほど役に立つとは思えませんが、何か口に出して言いたいと思って、こう言うのです。

また、「私の家には庭があります。でも狭いですよ」と言いたければ、これも「猫」を使って、「猫の額ほどの庭があります」と言います。猫にも、額の広い猫と狭い猫がいると思うので、日本語の分かる猫に聞かれたら、「失礼じゃないですか」と怒られてしまいそうです。

まだまだたくさん「猫」のお世話になる便利な言い方はあるのですが、「猫に小判」という言い方ほど面白いものはないでしょう。小判は昔のお金ですから、今なら「猫に一万円」と言えば、意味が分かるでしょうか。高い辞書を持っていても、全然使わずに本棚に並べておくだけの人に、「猫に小判だね」と言うのです。

猫だけではなく、犬、牛、馬など、人と昔から生活してきた動物たちを使った言い方がたくさんあります。皆さんの国の言葉にも「猫の手」や「猫の額」、そして「猫に小判」などと同じような言い方がありますか。あれば是非それを紹介してください。



2 身体に関する言い回し

新しい言葉

言い回し(名)	表达方式, 慣用句
かよう(形動)(=このような)	这样, 如此
喜怒(名)	喜怒
面ぶせ(おもてぶせ)(名)	无脸见人
胼胝(たこ)(名)	茧子
腹筋(名)	腹部肌肉
地藏顔(名)	菩萨面孔
閻魔顔(名)	阎王脸
口車(名)	甜言蜜语, 好话
顔を背ける(連語)	转过脸去
うごめかす(他五)	象虫子一样蠕动
口すぎ(名、自サ)	生计, 糊口, 谋生
耳寄(形動)	引人喜爱, 令人喜欢

考えましょう

(1) あなたの国の言語のなかで、よく身体に関する言い回しを使いまか、例をあげて説明してください。

(2) 日本語の中で、目、顔、鼻、耳、頭、口、胸、腹、腰などに関する言い回しをまとめて、その意味を確認してください。

(3) 「口は災いの元」はどんな意味ですか。

(4) 「口車」はどんなときに使いますか。

本文

身体に関する言い回し

「風を引いた」ということを 'I have drawn wind.' と言ったり、「たばこをのむな」ということを 'Don't drink tobacco.' といったりして笑われたことは、よく耳にする話である。

日本ではたばこを飲むと言うが、中国流に言えば喫煙で、食べるのであり、西洋流の Smoke はくゆらす、吹かすの意味である。かように国々それぞれ

れの言い回し方が違う。外国語を学んで一番難しいのはこの言い回し、慣用語をのみこむ——のみこむも一種の日本の慣用語である——ことで、我々が平生何気なく使っている言い回しの中にも、よく考えてみれば、ずいぶんおもしろいことが多い。まず身体に關したものを挙げてみよう。

頭と顔。「あの人は頭がいい。」「頭がしっかりしている。」というのは脳のよいことで、これは明治以後の新しい言い回しである。西洋語の知った人の使い始めた言葉であろう。「頭を縦に振る」のは承知すること、「横に振る」のは不承知のこと、「頭が高い」というのはお辞儀の仕方の丁寧でないこと、これらは實際の挙動を言い表したのである。

「顔が広い」ということは、顔幅の広いのではなく、世間の付き合いの広いこと、付き合いが広ければ方々へ顔を出すから、自然にその顔が広くなるのである。顔は個人の看板のようなもので、お互いに同士識別のも顔による。嬉しいことも悲しいこともいやなことも、まず第一に顔に現れる。喜怒色に現れぬということは、よほどの英雄であって、恥ずかしいときには誰でもばっと赤くなる。人の感情は顔に現われるように作られているのである。それゆえ、恥ずかしいときには、袖で顔を隠したり、顔を背けて人に見られぬようにする。「顔が出ません」とか、「面目がない」というのはすなわちそれで、古い国語では「面ぶせ」と言った。「どの面さげてきた」とののしられるのはこういう時である。それでも平気でいるのを「面の皮が厚い」といい、「鉄面皮」という。「面の皮千枚張り」などという恐ろしい形容の語もある。それゆえ、人の言い分を通し、その人の意志を承認することを「顔を立てる」という。「俺の顔を立ててくれ」といい、「君の顔に免じてそうしよう」などと話が落着く。これに反して、承知せぬ時は、言い出した人の「顔が立たぬ」。「顔がつぶれる」。顔は元來立っているものでないが、つぶれては大変だ。不名誉のことをすれば、自分の顔がつぶれるのみではない。親、兄弟、友達の「顔を汚す」いわゆる「面汚し」になって、みんなの「顔に泥を塗る」のである。その他、「借りるときの地藏顔、返すときの閻魔顔」「知らん顔」「泣き面」など、顔の種類は数限りなく多い。

目。顔には目や鼻や口がある。顔の表情はこちらのものの助けが多い。人間の目のひとみは、猫のように太くなったり細くなったりはしないが、喜怒哀楽につれて、第一に変化を生ずるのは、やはり目である。感情の激しいときには涙というものが目の中に湧いてくる。それが悲しい時とおかしい時の、両極端に出るのも不思議ではないか。それゆえ、「目を細くする」時は平和の時で、「目を怒らす」「目に角を立てる」場合などは感情の激した時である。「目

を逆立てる」ことは実際は難しかろう。しかられるほうでは「大目玉を食う」と感ずる。驚いたときは「目を丸くする」のもありがちである。「目の色を変える」のはとにかく非常の場合で、「目が座る」のは酔った人の形容。ことわざに曰く、「目は口ほどものを言う」と。

鼻。鼻は顔の中央に位して、顔の品位を作るにあずかって力がある。あぐらをかいた鼻は、低くて上品でない。高いのが上等と思われたから、自慢することを「鼻にかける」といい、「鼻を高くする」という。少し得意になれば「鼻をうごめかす」。威張る人は「鼻の先で人をあしらう」ことがある。「この私が」などと鼻を指すのを見ても、個人はある意味において鼻をもって代表されるのである。古い軍記物語で「鼻白む」ということはびっくりすること。びっくりすれば鼻が白くなるというのは、恥ずかしい時に顔が赤くなるのと正反対である。「鼻につく」「鼻つまみ」などは嗅覚から出た言い回しである。

口。口は食物を入れる関門で、同時に言語を発する器官である。「口に合わぬ」「口が奢る」などは食物の方からいった言葉で、「口が悪い」「口が重い」などは言語についての慣用句である。「口過ぎ」は糊口というのと同様で、この語を聞くと、生きるために食うのか、食うために生きるのか、何となく生活難の感を引き起こす。これに反して、「口車」という一語はいかにも偽りの多い世の中を眼前に浮かばせる。「口は災いの元」ということは、主としてものを言う時の戒めであろうが、暴飲・暴食の戒めにも応用ができる。重宝なものも口、危ないのも口、とかく「口をふさごう」としても、「人の口には戸が立てられぬ」ものである。

耳。「耳を傾ける」というのは漢語が元で、傾聴する様子。「耳をふさぐ」は聞くを厭うので、聞いて心に感動を与える場合には、国語では「耳立つ」という。これは見る時にも同様で、「目立つ」という語がある。「耳よりの話」というのは望ましいことを聞いた時にいう。耳は顔の外に出ているから、外気に触れやすい。したがって外から来る音声は一番早く入る。その代わり寒い風などはもっとも強く感じる。それゆえ、「耳を切るような寒さ」などという。「耳にたこのできるほど聞いた」というのもおもしろい形容である。

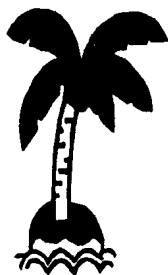
胸。顔がすんで胸にさがる。「胸が痛い」「胸がつかえる」。精神状態の苦悶は、胸にきて現れることが多い。ようよう「胸が開いた」「胸がすいた」はそれがなごったのである。胸の中には心臓がある。人の感情はたちまち心臓の鼓動に影響するから、昔の人がこれを精神作用の本源地と思ったのも無理はない。「胸算用」「胸勘定」などの語もある。「胸がつぶれる」のは驚きの時、「胸の火が燃える」のは怒りの時である。

腹。腹の中には食物を消化する胃・腸である。「腹がへる」「腹がふくれる」はもつともなことであるが、ここも感情を表わすところと見られて、「腹が立つ」というのは、考えればおもしろい。「腹をすえかねる」から、反対に立つのであろう。「腹いせ」といって日ごろの無念を晴らすこともある。胆力といって、腹の中の肝から元気が出ると考えたから、驚くのを「肝をつぶす」という。「腹黒」といい、「腹が汚い」というに至っては、全く精神が腹の中にあると考えたらしい。「よく腹で味わってみろ」というもの、考えてみよと言うことである。笑うときに、「腹筋をよる」というのは実際の状態である。また「腹の皮をよる」とも言う。それと同じように「へそが茶を沸かす」とも言う。

腰が座らなければ武芸はできぬ。それゆえ、卑怯なやつは「腰抜け武士」である。まだまだあるが、このくらいでやめる。

「筆のままに」による

注：芳賀矢一(1867—1927)国文学者。越前(福井県)生まれ。東大教授・国学院大学長。日本文献学を提唱し、国文学の研究の基礎を作った。社会教育・国民修養などにも力を注ぐ。著「国文学十講」、「国民性十論」など。



ユニット1ー2

1 あそぶ

新しい言葉

売れる(自下一)	畅销,好买
華道(名)	花道
茶道(名)	茶道
剣道(名)	剑道
悩む(自五)	烦恼
苦しむ(他五)	感到痛苦难受
熱心だ(形動)	热心的
ゲーム[game](名)	游戏
なるほど(副)	诚然,的确,果然
何もかも(副)	全部,都
必要だ(形動)	必要的

考えましょう

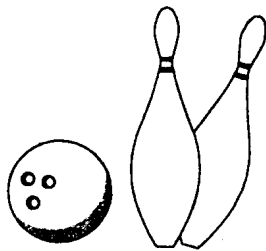
- (1)あなたは暇なとき、どんなことをしますか。
- (2)「遊び」という言葉を聞いて、何を考えますか。
- (3)何をしているときが一番楽しいですか。
- (4)あなたの国ではおとなはどんなことをして遊んでいますか。
- (5)華道や茶道はどんなことを大切にしますか。
- (6)技術というのは上手か下手かだけを問題をしているのですか。
- (7)「子供のように自由な気持ちで遊ぶ」というのはどんなことでしょうか。
- (8)あなたはゲームに勝つのに、何が大切だと思いますか。
- (9)あなたは、どんなとき遊びたいですか。

あそぶ

「パチンコ道」という本が売れているそうです。パチンコは暇なときにちょっとした遊びなのに、それをまるで、形を大切にする日本文化の中の華道や茶道のように呼んでいます。日本には昔から「○○道」と呼ばれるものがあります。お花やお茶のほかにも、スポーツでは柔道や剣道などもそうです。考えてみると、きれいに花を飾ったり、おいしくお茶を飲んだり、運動をやっていい気持ちになったりするのには、どれもそんなに特別に悩んだり、苦しんだりしてすることではありません。そのような簡単で当たり前のことを「○○道」と呼び、難しくしてしまって、それを熱心に練習する日本人はまじめすぎるのでしょうか。

ある人が「パチンコのような遊びも、そのゲームに勝つか負けるかは全部自分の技術だと思うから一生懸命になるのです。技術といっても、上手か下手かだけが問題ではなく、その技術を使う人の気持ちの持ち方までも問題にしているのです。高い技術と心が一つになったときにだけゲームに勝てるし、きれいに花を飾れるし、本当にお茶が楽しめる、柔道や剣道でも同じことが言えるという考え方です」と言うのを聞き、「なるほど」と思ったことがありました。

こういうまじめな日本人は、もしかすると遊んでいるときにも規則や形のことを考えながらがんばっているのかもしれませんが、もちろん、遊びも仕事もどちらにも一生懸命になるのはいいことですが、時々、何もかも忘れて子供のように自由な気持ちで遊んでみることも必要なのではないのでしょうか。



2 祭り

新しい言葉

禅ブーム[-boom](名)	禅教气氛,高潮
行き渡る(自五)	普及,遍布,渗透
独特(名、形動)	独特
座禅(名)	修行的一种
悟る(他五)	感悟,觉悟
好む(他五)	喜好
禅の心(名)	禅心
知れ渡る(自五)	尽人皆知
枯山水(名)	日本画的一种以白砂黑石子来表示的日本庭园山水画
誇る(他五)	引以自豪
引き付ける(他一)	吸引人
座禅を組む(慣用句)	盘腿打坐
瞑想(他サ)	冥想
どんちゃん騒ぎ(名)	夹杂着大鼓钟声吵吵嚷嚷
眉を顰める(ひそめる)(連語)	皱眉
役割を果たす(連語)	发挥作用
眩しい(形)	耀眼的
氏神様(うじかみさま)(名)	护家神
恵みをこう(慣用句)	乞求赐福
怒り(いかり)を静める(慣用句)	制怒
わっしょい(感嘆語)	喊号子发出的声音“嘿呦”
没頭する(他サ)	沉溺于、投身于
吹き飛ばす(他五)	驱逐、赶走

考えましょう

(1)祭りの本来の目的は何であったでしょうか。現在では、どう変わりましたか。

(2)御神興は何でしょうか、調べてみてください。

(3)知っている日本の祭りを話し合ってください。

(4)あなたの国ではどんな祭りがありますか。

(5)祭りの意義について話し合ってください。

本文

祭り

梅雨が明けて太陽の光が眩しく感じられる頃になると、夏祭りという言葉があちこちで聞かれるようになる。テレビや新聞が各地の祭りの風景をつたえる。通りかかった町で御神輿の行列に会い、太鼓の音を聞くと、氏神様のお祭りを指折り数えて待った子供の日の記憶がよみがえってくる。

祭りは実に様々である。本来は、神を迎えて、もてなし、恵みを請い、怒りを静めるのが目的であったというが、現在ではどちらかというと、宗教的要素より観光的要素の大きいものも少なくない。また、地域の共同体意識を強めるという意義も少なくなっている。「わっしょい、わっしょい」と勢いよくお神輿を担いでいる若者たちも、実はその町の住民とは限らない。お神輿を担がせてもらいに遠くから駆けつける人も増えているということである。

また、祭りが見直されている。祭りがあるところ、人が集まる。人が集まれば、そこにカネが落ちる。祭りを通じて町の和も生まれる。博多には昔から「のぼせもん」が多い。祭りとなると、家業もそっちのけで、のぼせる人たちだ。祭りへの総参加意識と手介当主義は、どんたくにいまも生きている。最近では企業の参加も目立つ。「規模だけ大きくなったが、情緒がない」という声も聞かれるが、企業の社会参加も時代の流れか。だが、その祭りを起こし、続けていくのは並大抵のことではない。

宗教的な意識も薄れ、地域共同体意識強化の意識も減ったとすれば、ただ一つ残るのは、「にぎやかに大勢で騒ぐ」ということであろう。娯楽らしい娯楽がなかった昔の人にとって、祭りは苦しい農作業に耐えた長い月日のエネルギーを爆発させる場であった。スポーツ、演劇、旅行と娯楽の機会に取り巻かれた現代人は、熱狂的な団体行動に没頭することによって、孤独と不安を吹き飛ばそうとしているのであろう。